

## 授業の具体的展開例

- T 「おお おお、じいさまかい。さぞ つめたかったらうの。」  
 のところをいろいろな読み方で読んでみましょう。最初は大きな  
 声で「元氣よく読みます。」
- C (全員) 「おお おお、……。さぞ つめたかったらうの。」
- T 次は小さな声で悲しそうに。(全員で音読)
- T 今度は、ゆっくり心配そうに。(全員で音読)
- T 最後はふんぞり返ってえらそうに。(全員で音読)
- T どの読み方がよかったですか。
- C1 ゆっくり心配そうに読むのがよかったです。
- T なぜ、ゆっくり心配そうに読むとよいと考えたのですか。
- C2 ばあさまがじいさまを心配しているからです。
- T なぜ心配していると思ったのですか。
- C3 ばあさまは、さぞつめたかったらうと言っているからです。
- C4 ばあさまは、かさが売れたかどうかより、じいさまがつめた  
 かったかどうかを先に聞いているからです。
- T なるほど、ばあさまはじいさまのことを心配していますね。  
 では、もう一度、ばあさまの気持ちになって読んでみましょう。

## 板書例

「かたじけなく」

ゆめかたき くつろじつ。

大きな声で げんきよく	小さな声で かなしそうに
ゆっくり しんぱいそうに	ふんぞりかえっ て、えらそうに

「おお おお、じいさまかい。さぞ つめたかったらうの。」

じいさまが 心配しているから。

「じいさまも、この 書いちゃ さぞ つめたかったらう。」

ばあさまは やさしい 人だから。

「まじきの まねじつに」

ばあさまは ほんまに わたしから。